

基準1 理念・目的

| 評価 | 内容 |
|----|------------------------|
| ◎ | 達成しているだけでなく、特筆すべき事項がある |
| ○ | 達成している |
| △ | 達成しているが、やや不十分である |
| × | 不十分であり、改善すべき点が多い |
| — | 該当なし |

1. 現状分析

評価項目① 大学の理念・目的を適切に設定していること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 1 | 大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける大学の目的及び学部・研究科における教育研究上の目的を明らかにしているか。 | ○ |
| 2 | 理念・目的を教職員及び学生に周知するとともに、社会に公表しているか。 | ○ |

評価項目② 大学として中・長期の計画その他の諸施策を策定していること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 3 | 中・長期の計画その他の諸施策は、大学内外の状況を分析するとともに、組織、財政等の資源の裏付けを伴うなど、理念・目的の達成に向けて、具体的かつ実現可能な内容であるか。 | ○ |
| 4 | 中・長期の計画その他の諸施策の進捗及び達成状況を定期的に検証しているか。 | ○ |

2. 分析を踏まえた長所と問題点

| No. | 長所 | 問題点 |
|-----|---------------------------------|-----------------------------------|
| | 1.現状分析で「◎」の場合の特筆すべき事項を記載してください。 | 1.現状分析で「△」・「×」の場合の不十分な点を記載してください。 |
| 5 | 特になし。 | 特になし。 |

3. 改善・発展方策

| No. | 改善・発展方策 |
|-----|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度と比較した際に変更(新規・廃止・更新)となった取り組み ・長所を受けて、さらに発展させる予定の取り組み ・問題点を受けて、改善予定の取り組み を記載してください。 |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価委員会を中心とする「理念・目的」の共通認識に繋がるFD研修会。 ・学部KPIについて教授会、学部会議、全体会議において周知徹底するとともに、達成状況と未達成項目情報の共有が必要。 |

基準2 内部質保証

| 評価 | 内容 |
|----|------------------------|
| ◎ | 達成しているだけでなく、特筆すべき事項がある |
| ○ | 達成している |
| △ | 達成しているが、やや不十分である |
| × | 不十分であり、改善すべき点が多い |
| - | 該当なし |

1. 現状分析

評価項目① 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 1 | 内部質保証のための全学的な方針において、基本的な考え方、体制(全学内部質保証推進組織をはじめとした諸組織の位置づけ、役割や責任)や手順を明らかにしているか。 | ○ |
| 2 | 教育の企画・設計とその実施、自己点検・評価及び改善活動に関して、全学的な調整や支援を行っているか。 | ○ |
| 3 | 大学全体規模や学部、研究科その他の組織(教職課程を実施する全学的組織を含む)における自己点検・評価をそれぞれ定期的の実施し、その結果を活用して改善・向上に取り組んでいるか。 | - |
| 4 | 学部、研究科その他の組織における自己点検・評価の客観性、妥当性を高めるために、学生の意見や外部の視点を取り入れるなどの工夫をしているか。 | ○ |
| 5 | 行政機関、認証評価機関等から指摘事項があった場合、それに適切に対応しているか。 | ○ |

評価項目②大学の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしていること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 6 | 教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしているか。 | ○ |
| 7 | 教育研究活動の情報として、学生の学習実態、学習上の成果に関わる情報を社会に分かりやすく公表しているか。 | ○ |

的に点検・評価を行い、改善・向上に向けた取り組みを行っていること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|---|----|
| 8 | 内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し、その結果に基づき、教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。 | - |

2. 分析を踏まえた長所と問題点

| No. | 長所 | 問題点 |
|-----|---------------------------------|-----------------------------------|
| | 1.現状分析で「◎」の場合の特筆すべき事項を記載してください。 | 1.現状分析で「△」・「×」の場合の不十分な点を記載してください。 |
| 9 | 特になし | 特になし |

3.改善・発展方策

| No. | 改善・発展方策 |
|-----|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度と比較した際に変更(新規・廃止・更新)となった取り組み ・長所を受けて、さらに発展させる予定の取り組み ・問題点を受けて、改善予定の取り組み を記載してください。 |
| 10 | アセスメント・プランに基づき、ダッシュボードを活用して視覚的に3つの教育方針について継続的な確認及び見直しを図る。 |

基準3 教育研究組織

| 評価 | 内容 |
|----|------------------------|
| ◎ | 達成しているだけでなく、特筆すべき事項がある |
| ○ | 達成している |
| △ | 達成しているが、やや不十分である |
| × | 不十分であり、改善すべき点が多い |
| － | 該当なし |

1. 現状分析

評価項目① 大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況が適切であること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 1 | 大学の理念・目的を踏まえ、また、学問の動向や社会的要請等に配慮したうえで、教育研究組織(学部・研究科や附置研究所、センター等)を構成しているか。 | ◎ |

評価項目②教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 2 | 教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。 | ◎ |
| 3 | 点検・評価の結果を活用して、教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげているか。 | ○ |

2. 分析を踏まえた長所と問題点

| No. | 長所 | 問題点 |
|-----|---|---|
| | 1.現状分析で「◎」の場合の特筆すべき事項を記載してください。 | 1.現状分析で「△」・「×」の場合の不十分な点を記載してください。 |
| 4 | ① ・新任教員は公募により採用。 ・研究所には学生を配属し、活発な研究を実施。 ・アンチエイジングセンター公開講座を開催し、国民に広く情報発信。 ・教職教育部による全学的な手厚い指導体制の構築。 ・ネイティブ教員の配置により、グローバル化に関する意識の向上。 ・現場の薬剤師が多数非常勤講師として実習に参加することで、最新の医療知識および技能の習得に寄与。 ② ・人事計画委員会において、数年先の教育研究体制のあり方を踏まえ新任教員の公募計画を継続。 ・セルフメディケーション、地域医療、OTCなどを教育する薬局薬剤師による講義を導入。 | ① ・薬学部とは別組織として設置されている薬学総合研究所という組織の独自性、存在感というものが明確に示せていない。 ・短期海外研修プログラムの拡充により教員交流を活発化。 ② 今後、薬剤師の職能として求められるセルフメディケーション、OTC薬、介護医療、などのコミュニケーションファーマシーを専門とする教員が不在。 |

3.改善・発展方策

| No. | 改善・発展方策 |
|-----|---|
| | ・令和6年度と比較した際に変更(新規・廃止・更新)となった取り組み ・長所を受けて、さらに発展させる予定の取り組み ・問題点を受けて、改善予定の取り組み を記載してください。 |
| 5 | ・薬学総合研究所として特に産学協同を強く押し出した組織として社会に活動を発信し、実学研究としての研究所をさらにめざしていく。 ・若手教員だけでなく、産と学の橋渡しできるような著名な研究者の採用も視野に入れる。 |

基準4 教育・学習

| 評価 | 内容 |
|----|------------------------|
| ◎ | 達成しているだけでなく、特筆すべき事項がある |
| ○ | 達成している |
| △ | 達成しているが、やや不十分である |
| × | 不十分であり、改善すべき点が多い |
| ＝ | 該当なし |

1. 現状分析

評価項目① 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|---|----|
| 1 | 学位授与方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしているか。また、教育課程の編成・実施方針において、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしているか。 | △ |
| 2 | 上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。 | ○ |

評価項目② 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|---|----|
| 3 | 学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 | ◎ |

評価項目③ 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 4 | 授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及び教育課程の編成・実施方針に応じたものであり、期待された効果が得られているか。 | ○ |
| 5 | ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているか。 | - |
| 6 | 授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。 | ◎ |

評価項目④ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 7 | 成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施しているか。 | ○ |
| 8 | 成績評価及び単位認定にかかる基準・手続(学生からの不服申立への対応含む)を学生に明示しているか。 | ○ |
| 9 | 振替得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を適切に行っているか。 | ○ |
| 10 | 学位授与における実施手続及び体制が明確であるか。 | ○ |
| 11 | 学位授与方針に則して、適切に学位を授与しているか。 | ○ |

評価項目⑤ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|---|----|
| 12 | 学習成果を把握・評価する目的や指標、方法等について考えを明確にしているか。 | ◎ |
| 13 | 学習成果を把握・評価する指標や方法は、学位授与方針に定められた学習成果に照らして適切なものか。 | ◎ |
| 14 | 指標や方法を適切に用いて学習成果を把握・評価し、大学として設定する目的に応じた活用を図っているか。 | △ |

評価項目⑥ 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 15 | 教育課程及びその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等が明確にしているか。 | ○ |
| 16 | 課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況、資格試験の取組状況、進路状況等の情報を活用するなど、適切な情報に基づいているか。 | ◎ |
| 17 | 外部の視点や学生の実見を取り入れるなど、自己点検・評価の客観性を高めるための工夫を行っているか。 | - |
| 18 | 自己点検・評価の結果を活用し、教育課程及びその内容、教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。 | - |

2. 分析を踏まえた長所と問題点

| No. | 長所 | 問題点 |
|-----|--|--|
| 1. | 現状分析で「◎」の場合の特筆すべき事項を記載してください。 | 現状分析で「△」「×」の場合の不十分な点を記載してください。 |
| 19 | <ul style="list-style-type: none"> ① カリキュラムを定期的に見直し、深遠な専門知識能力を高めるための科目の充実 ② 初年次教育と高大接続への配慮として、附属高校の教員による化学・生物の強化 ③ 創薬科学科において「薬学概論」などの科目において、低学年より創薬人を講師として招き、企業人としての視点と意識を醸成 ④ 創薬科学科において「大学院特別講義」などを「創薬選択セミナー」として単位の一種とするなど、大学院への連携も意識したカリキュラムの導入 ⑤ ハワイ大学短期海外研修プログラムの導入 ⑥ カリフォルニア大学短期海外研修プログラムの導入 ⑦ タイチオンマイ大短期海外研修プログラムの導入 ⑧ シラカスの充実と統一 ⑨ 体系的な講義としてPBL方式の講義を一部導入 ⑩ 学部独自の教育情報発信システムである「近畿大学薬学部Moodleサイト」を運用 | <ul style="list-style-type: none"> ① 「ポリシーの変更が学生ならびに社会の要請に応えられているか確認するための卒業アンケートを実施しているが、十分に活用できていない。 ② 履修要件やシラカスの内容が詳細すぎて、学生から簡便化を求められている。 ③ 卒業生に対する学習成果にかかるアンケートは、結果の整理だけで終わっており、内容についての詳細な解析が実施されていない。 ④ 医療薬学科 ⑤ 6年生になると薬剤師国家試験勉強のみ目標が移ってしまうので、リサーチマインドの醸成ができていない。 ⑥ 創薬科学科 ⑦ 3年次前期から卒業研究が始まるので、講義に対する真興味がかかるため、学力の低下が免れられない。 |

3. 改善・発展方策と全体のまとめ

| No. | 改善・発展方策 |
|-----|---|
| 19 | <ul style="list-style-type: none"> ① 卒業研究発表会で、教員の審査で、学生のモチベーションが上がっている。 ② 薬剤師国家試験合格に向けて、学生の勉学の目標が明確になっている。 ③ 前点検時、弱点科目を補強することにより、成績が上昇傾向にある。 ④ 創薬科学科 ⑤ 卒業研究発表会で、教員の審査で、学生のモチベーションが上がっている。 ⑥ リサーチマインドが醸成され、大学院進学率が上がっている。 |
| 20 | <p>改善・発展方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 令和6年度と比較した際に変更(新増・廃止・変更)となった取り組み ② 長所を受けて、さらに発展させる予定の取り組み ③ 問題点を挙げて、改善予定の取り組みを記載してください。 <p>① 履修要件、シラカス、時間割、英語日程等を有機的に統合するシステムを確立し、学生の利便性を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ② 卒業アンケートの教員への周知と、改善事項への対応 ③ 自己点検に外部評価者を設置し、客観的意見を聞く。 ④ 卒業生の変化等に対応した教育研究目標の改訂と目標達成のための学位授与方針・教育方針の設定 <p>② 創薬科学科では臨床検査技師取得に関わる追加履修科目が多いため、改訂が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ 履修漏れを防止するため、ガイダンスにおいて徹底が必要 ④ IR推進委員会を新たに設置したが十分に機能しておらず、ポートフォリオのデータ解析および学生へのフィードバックが必要 ⑤ ルーブリックの評価内容が、現状でもいかに検討し、さらにブラッシュアップすることが必要である。 <p>卒業生に対する学習成果にかかるアンケートの結果について、詳細に解析して、学習成果を上げるための問題点を抽出する</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ディプロマポリシーの達成を見える化するために取得科目と関連付けた学部独自のポートフォリオを作成し、R4年度から実施を開始した。 ② 卒業生による外部評価を設定する。 <p>卒業生に対する学習成果にかかるアンケートの結果について詳細に解析して、学習成果を上げるための具体的な実施案を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ 卒業研究発表会での優秀賞付与がモチベーションを上げているので、卒業研究発表会での質問を多くした学生に対する賞の付与など、聴講者に対する表彰を付与する。 ④ 卒業研究の重要性を4年、5年、6年の新学期に説明する。 <p>創薬科学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 卒業研究発表会での優秀賞付与がモチベーションを上げているので、卒業研究発表会での質問を多くした学生に対する賞の付与など、聴講者に対する表彰を付与する。 ② 講義の必要性を新学期当初にガイダンスで説明する。 |

基準5 学生の受け入れ

| 評価 | 内容 |
|----|------------------------|
| ◎ | 達成しているだけでなく、特筆すべき事項がある |
| ○ | 達成している |
| △ | 達成しているが、やや不十分である |
| × | 不十分であり、改善すべき点が多い |
| — | 該当なし |

1. 現状分析

評価項目① 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 1 | 学生の受け入れ方針は、少なくとも学位課程ごと(学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程)に設定しているか。 | ○ |
| 2 | 学生の受け入れ方針は、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示しているか。 | ○ |
| 3 | 学生の受け入れ方針に沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施しているか。 | ○ |
| 4 | 入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備しているか。 | ○ |
| 5 | すべての志願者に対して分かりやすく情報提供しているか。 | ○ |

評価項目②適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|---|----|
| 6 | 学士課程全体及び各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合には対策をとっているか。 | ○ |

評価項目③学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|---|----|
| 7 | 学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。 | ○ |
| 8 | 点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげているか。 | ○ |

2. 分析を踏まえた長所と問題点

| No. | 長所 | 問題点 |
|-----|---------------------------------|-----------------------------------|
| | 1.現状分析で「◎」の場合の特筆すべき事項を記載してください。 | 1.現状分析で「△」・「×」の場合の不十分な点を記載してください。 |
| 9 | 特に無し | 特に無し |

3.改善・発展方策と全体のまとめ

| No. | 改善・発展方策 |
|-----|--|
| | ・令和6年度と比較した際に変更(新規・廃止・更新)となった取り組み ・長所を受けて、さらに発展させる予定の取り組み ・問題点を受けて、改善予定の取り組み を記載してください。 |
| 10 | 広報活動のさらなる充実 |

基準6 教員・教員組織

| 評価 | 内容 |
|----|------------------------|
| ◎ | 達成しているだけでなく、特筆すべき事項がある |
| ○ | 達成している |
| △ | 達成しているが、やや不十分である |
| × | 不十分であり、改善すべき点が多い |
| — | 該当なし |

1. 現状分析

評価項目① 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 1 | 大学として求める教員像や教員組織の編制方針に基づき、教員組織を編制しているか。 | ◎ |
| 2 | クロスアポイントメントなどによって、他大学又は企業等の人材を教員として任用する場合は、教員の業務範囲を明確に定め、また、業務状況を適切に把握しているか。 | ○ |
| 3 | 教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現しているか。 | ○ |
| 4 | 授業において指導補助者に補助又は授業の一部を担当させる場合、あらかじめ責任関係や役割を規程等に定め、明確な指導計画のもとで適任者にそれを行わせているか。 | ○ |

評価項目②教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 5 | 教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っているか。 | ◎ |
| 6 | 年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っているか。また、性別など教員の多様性に配慮しているか。 | ○ |

評価項目③教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 7 | 教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。 | ○ |
| 8 | 教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。 | ○ |
| 9 | 大学としての考えに応じて教員の業績を評価する仕組みを導入し、教育活動、研究活動等の活性化を図ることに寄与しているか。 | ○ |
| 10 | 教員以外が指導補助者となって教育に関わる場合、必要な研修を行い、授業の運営等が適切になされるよう図っているか。 | ○ |

評価項目④教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 11 | 教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。 | ○ |
| 12 | 点検・評価の結果を活用して、教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。 | ○ |

2. 分析を踏まえた長所と問題点

| No. | 長所 | 問題点 |
|-----|--|----------------------------------|
| | 1.現状分析で「◎」の場合の特筆すべき事項を記載してください。 | 1.現状分析で「△」「×」の場合の不十分な点を記載してください。 |
| 13 | 1.学部会議、全体会議を定期的で開催し、全教職員に対して、学生教育、大学全体の研究、教育方針に関する情報やポリシーを周知し、共有することを心がけている。 5.研究、教育能力に秀でた優秀な人材を広くリクルートする上でも公募制の導入は有益である。選考については、研究室における運営等も含め、業績の優劣のみに拘泥することなく、人格面や学生との協調性も含めた人物評価についても細密に行っている。 | 特になし |

3. 改善・発展方策と全体のまとめ

| No. | 改善・発展方策 |
|-----|--|
| | ・令和6年度と比較した際に変更(新規・廃止・更新)となった取り組み ・長所を受けて、さらに発展させる予定の取り組み ・問題点を受けて、改善予定の取り組み を記載してください。 |
| 14 | 将来検討委員会の充実化： 1.教員組織に関わる事項の改善案として、人材の補充が最優先である。そこで、将来検討委員会を設置し、今後どのような人材を、いつ確保すべきかについて議論し、将来的な人事ビジョンを教員間で共有している。これによりR7年度は若手教員の採用および3年以内に各研究室における三人体制の充実の実現が達成されつつある。 2.年齢構成、国際性、男女比といった多様性の観点に留意するため、若手・女性・海外籍教員の積極的な採用などを目指している。R6年に若手・女性・海外籍教員が1名採用されたものの、全体的には若手・女性教員不足と国際性の乏しさ、女性教授がいらないといった点が目立つため、将来検討委員会を始めとする委員会開催回数を増やし、教授会により人事計画の解像度を高めることで本点の改善を図っている。 |

基準7 学生支援

| 評価 | 内容 |
|----|------------------------|
| ◎ | 達成しているだけでなく、特筆すべき事項がある |
| ○ | 達成している |
| △ | 達成しているが、やや不十分である |
| × | 不十分であり、改善すべき点が多い |
| — | 該当なし |

1. 現状分析

評価項目① 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 1 | 学生支援に関する大学としての方針に基づき、各種の学生支援体制を整備し、教員と職員がそれぞれ役割を果たしながら支援を行っているか。 | ○ |
| 2 | 各種の学生支援にあたり、専門的な知識・能力や経験を有する者を含む必要なスタッフを配置しているか。 | ○ |
| 3 | 学生支援に関する情報を学生に積極的に提供するとともに、その支援は学生の利用しやすさに配慮しているか。 | ○ |
| 4 | [修学支援(学習面)] 学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備しているか(補習教育、補充教育、学習に関わる相談等)。 | ○ |
| 5 | [修学支援(学習面)] 障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っているか。 | ◎ |
| 6 | [修学支援(学習面)] 学習の継続に困難を抱える学生(留年者、退学希望者等)に対し、その実態に応じて対応しているか。 | ○ |
| 7 | [修学支援(学習面)] 遠隔授業をはじめ教育等でICTを活用する場合は、ICT機器の準備や通信環境確保等において学生間に格差が生じないよう、必要に応じて対応しているか(機器貸与、通信環境確保のための支援等)。 | △ |
| 8 | [修学支援(学習面)] ICTを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応(授業動画の再視聴機会の確保等)を必要に応じて行っているか。 | ○ |
| 9 | [修学支援(経済面)] 学生に対する経済的支援(授業料減免、学内外の奨学金を通じた支援等)を、学生の実態等に応じて行っているか。 | ○ |
| 10 | [生活支援] 学生の心身の健康、保健衛生等に関わる指導・相談を、学生の実態に応じて行っているか。 | ○ |
| 11 | [生活支援] 学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置(学生の交流機会の確保等)を必要に応じて行っているか。とりわけICTを利用した遠隔授業を行う場合において配慮しているか。 | ○ |
| 12 | [進路支援] 各学位課程(学士課程、修士課程や博士課程など)や分野等における必要性、個々の学生の特性等に応じ、就職支援のほか、職業的自立に向けたキャリア教育・キャリア形成支援等の進路支援を行っているか。 | ○ |
| 13 | [その他支援] 上記のほか、部活動・ボランティア活動等の正課外における学生の活動への支援など、必要に応じた支援を行っているか。 | ○ |
| 14 | [学生の基本的人権の保障] ハラスメント防止、プライバシー権の保障や苦情申立への対応など、学生の基本的人権の保障を図る取り組みを行っているか。 | ○ |

評価項目② 学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 15 | 学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。 | ○ |
| 16 | 点検・評価の結果を活用して、学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。 | ○ |

2. 分析を踏まえた長所と問題点

| No. | 長所 | 問題点 |
|-----|---|---|
| | 1.現状分析で「◎」の場合の特筆すべき事項を記載してください。 | 1.現状分析で「△」「×」の場合の不十分な点を記載してください。 |
| 17 | 5.「障がい学生支援課」との連携による必要に応じた障がい学生の独自修学支援策学部独自の奨学金制度の設置 | 2021年度入学生よりBYODとして全学生ノートPC必修化を実施した。生協によるPC販売やサイトライセンスによるソフトウェア提供などのサポートを行っている。一方でBYODに伴って学部PC教室は廃止され、ハード面でのサポートは若干後退している。 |

3. 改善・発展方策と全体のまとめ

| No. | 改善・発展方策 |
|-----|--|
| | ・令和6年度と比較した際に変更(新規・廃止・更新)となった取り組み ・長所を受けて、さらに発展させる予定の取り組み ・問題点を受けて、改善予定の取り組み を記載してください。 |
| 18 | 学生指導・留年生対策委員会を主体に、留年生・成績不振学生に定期的な声かけを行い、サポートを充実させる必要がある。 |

基準8 教育研究等環境

※「教育研究等環境」…大学が教育と研究活動を効果的かつ安全に行うために整備する、物理的・人的・情動的なあらゆる環境要素の総称

| 評価 | 内容 |
|----|------------------------|
| ◎ | 達成しているだけでなく、特筆すべき事項がある |
| ○ | 達成している |
| △ | 達成しているが、やや不十分である |
| × | 不十分であり、改善すべき点が多い |
| — | 該当なし |

1. 現状分析

評価項目①教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、学生の学習、教員の教育研究活動に必要な環境を適切に整備していること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 1 | 教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、学生の学習環境や教員の教育研究環境を適切に整備しているか。 | ○ |
| 2 | 学生の学習や教員の教育研究活動の必要性に応じてネットワーク環境やICT機器を整備し技術的な支援を行う等により、それらの活用を促進しているか。 | ○ |
| 3 | 学生及び教職員の情報倫理の確立を図るために取り組んでいるか。 | ○ |

評価項目②図書館サービス及び学術情報サービスを提供するための体制を備えていること。また、それらを適切に機能させていること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 4 | 教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、図書その他の学術情報資料を体系的に整備しているか。 | ○ |
| 5 | 図書館には、学生及び教員の利用のために、必要な専門的な知識を有する職員を含む人員を適切に配置しているか。また、図書館等の施設環境が適切であるか。 | ○ |

評価項目③研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|--|----|
| 6 | 研究に対する大学の基本的な考えに沿って、長期的な視点に立った支援や条件整備を十分に行い、各教員の研究活動の活性化につなげているか(教員に対する研究費の支給、研究室の整備、研究時間の確保、専門的な研究支援人材の活用等の人的な支援、若手研究者育成のための仕組みの整備等)。 | ◎ |
| 7 | 研究倫理や研究活動の不正防止に関する規程を定め、かつ、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っているか。 | ○ |

評価項目④教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|---|----|
| 8 | 教育研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。 | ○ |
| 9 | 点検・評価の結果を活用して、教育研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげているか。 | ○ |

2. 分析を踏まえた長所と問題点

| No. | 長所 | 問題点 |
|-----|--|-----------------------------------|
| | 1.現状分析で「◎」の場合の特筆すべき事項を記載してください。 | 1.現状分析で「△」・「×」の場合の不十分な点を記載してください。 |
| 10 | 6. 研究室および教員には教育研究費（講座費）・配分研究費などが支給されており、学術図書等の購入費、学会費・学会参加費および学会旅費に対する専任教員個人の負担は軽減されている。 ・論文投稿料の支出の柔軟な運用により、高額な投稿料を必要とする一流雑誌にも投稿しやすくなり、研究活動が活性化されている。 | 特になし |

3. 改善・発展方策と全体のまとめ

| No. | 改善・発展方策 |
|-----|--|
| | ・令和6年度と比較した際に変更(新規・廃止・更新)となった取り組み ・長所を受けて、さらに発展させる予定の取り組み ・問題点を受けて、改善予定の取り組み を記載してください。 |
| 11 | 特になし |

9-1-1 社会連携・社会貢献

| 評価 | 内容 |
|----|------------------------|
| ◎ | 達成しているだけでなく、特筆すべき事項がある |
| ○ | 達成している |
| △ | 達成しているが、やや不十分である |
| × | 不十分であり、改善すべき点が多い |
| — | 該当なし |

1. 現状分析

評価項目①社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|---|----|
| 1 | 社会連携・社会貢献に関する方針のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っているか。 | ◎ |
| 2 | 社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっているか。 | ◎ |

評価項目②社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

| No. | 評価の視点 | 評価 |
|-----|---|----|
| 3 | 社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。 | ◎ |
| 4 | 点検・評価の結果を活用して、社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげているか。 | ◎ |

2. 分析を踏まえた長所と問題点

| No. | 長所 | 問題点 |
|-----|--|-----------------------------------|
| | 1.現状分析で「◎」の場合の特筆すべき事項を記載してください。 | 1.現状分析で「△」・「×」の場合の不十分な点を記載してください。 |
| 5 | <p>評価項目① (株)ア・ファーマ近大では、早摘みの青みかんにヘスペリジンが多く含まれることを発見し、サプリメントとして商品化し販売しているほか、青はっさくにナリンギンやネオヘスペリジン、黒しょうにはメトキシフラボン類などの機能性成分が多く含まれることを見出し商品化している。また、これらに加え、本学の研究成果を踏まえ、焼津水産高等学校や地元企業との提携、本学水産研究所と化粧品製造企業との連携により化粧品の開発・実用化に至っている。さらに、食品メーカーと連携して生姜のギンゲロールや蛇腹のナリルチンに注目した商品なども開発している。また、薬剤師の資質向上を図るために、日本薬剤師研修センターとの共催で、年2回、生涯教育研修会を実施している。さらに、公開講座として「近畿大学公開講座」と薬学部教員が主体となり運営している近畿大学アンチエイジングセンターの専門性を活かした「市民公開講座」を開催している。また、産学連携商品の販売や民間企業との共同研究は維持・拡大を持続しているが、研究成果の権利化についても強化している。過去5年に特許公開されたものは21件となる。</p> <p>評価項目② 社会連携・社会貢献の拠点としては、リエゾンセンターにおいて組織化されており、その役割が大きい。また、地方自治体との連携、地域貢献活動については平成28年から開設された社会連携推進センターが主となり、確認が行われている。産学連携商品の共同開発は民間企業だけでなく自治体との連携も行い、薬学部だけの活動ではないが市町村等自治体との包括連携協定や金融機関との包括連携協定に基づく連携も増やしている。</p> | 特になし |

3. 改善・発展方策と全体のまとめ

| No. | 改善・発展方策 |
|-----|--|
| | ・令和6年度と比較した際に変更(新規・廃止・更新)となった取り組み ・長所を受けて、さらに発展させる予定の取り組み ・問題点を受けて、改善予定の取り組み を記載してください。 |
| 6 | 特になし |